

50年前の昭和33年(1958年)は、高度成長が始まった頃です。一万円札発行、東京タワーと南極昭和基地の完成、翌年には天皇陛下と美智子妃殿下のご成婚がありました。

50年前(昭和33年)の情景

① 50年前の武蔵小杉駅

南武線(南武鉄道)のグラウンド前駅と武蔵小杉駅、東横線(東京横浜電鉄)の工業都市駅が昭和28年に現在の武蔵小杉駅の場所にまとまり、両線のホームが連絡通路でつながり乗り換えが楽になりました。国鉄武蔵小杉駅は木造平屋建てで、昭和34年北口広場にバスターミナルができ、駅前には東光ストアやアパート群が建ちました。

② 北口のまちなみ

昭和34年に小杉～溝の口駅間のバス路線が開通。昭和39年頃には南武沿線道路が建設され、交通網が整ってきました。小杉1・2丁目には、日本医科大学の病院、運動場と大西学園のほか、会社の寮が、新丸子東1・2丁目には、小工場や旅館などがありました。空地や耕作地も多く、駅北口一帯は、まだ民家もまばらで時々追いはぎが出たそうです。



※1

③ ニヶ領用水

徳川家康の命により代官小泉次大夫が1611年に完成させたニヶ領用水は、小杉の地を潤し、質の良い稲毛米や桃、いちごが栽培され、かつては水車も廻り、小麦粉の製粉や素麺、白玉づくり等が行われていました。50年前のニヶ領用水は今より広く深く、子供たちは競って泳ぎ、鯉やうなぎ、なまずも捕れ、小舟や釣り小屋もありました。



※1

④ 南口のまちなみ

当時の工業都市駅前の府中街道と法政通りは、賑やかな商店街で、人々の楽しみは有楽座の2本立てや夜間割引の映画でした。また、喫茶店や電気店、街頭テレビには、当時超人気のプロレスで力道山の空手チョップを観るために黒山の人だかりになっていました。法政二高の甲子園優勝パレードには、町中が興奮しました。



たなばた祭りの様子 / 松本等氏提供

⑤ 活気あふれる工場のまち

南武線向河原駅一帯は農村地帯でした。そこに日本電気をはじめとした、東京機械、不二製作所等の工場が進出して来ました。当時の先端を行く製品を作り、世間の注目を浴びました。周辺には社宅や、関連工場が増え、まちが活気づきました。

※表紙写真(下)と※1の写真は、とうよこ沿線「わが町の昔と今」第2巻より出典



小杉今★昔 WALKING MAP



編集・発行：なかはら 20年構想委員会

問 中原区役所地域振興課 電話044-744-3324 FAX044-744-3346

母なる多摩川の恵みのもと
400年前にニヶ領用水が引かれ
80年前には鉄道が開通
豊かな農地から都市化への波
そして今 工場移転に新駅
まさに住みたいまちナンバーワン・小杉の誕生
50年前の歴史を楽しみながら
今と明日の小杉を
歩いてみてください

武蔵小杉駅は昭和28年にできた!

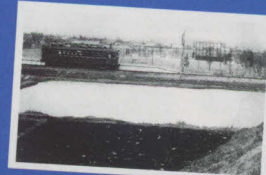


現在の武蔵小杉駅は、3つの駅が統合されて誕生した。

沿線案内(東京横浜電鉄・目黒蒲田電鉄) / 川崎市市民ミュージアム所蔵



東横線「工業都市駅」 / ※1



南武線「グラウンド前駅」 / ※1

昔マップ

小杉 エリア

中原高等女学校として昭和3年開校。幼稚園から高校までの一貫教育と音楽教育が有名。
／大西学園提供

大西学園

日本医科大学付属第一医院

昭和12年開院。昭和20年の大空襲で焼け残った白亜館を後に改修した。空襲後は、医師や看護師たちは近所のアパートを借りて病人や怪我人の手当てをした。
／日本医科大学武蔵小杉病院提供



昭和20年頃

昭和33年頃

南武線

丸子湯
東京機械の社宅用浴場。地域の人にも開放したので、まちの人達も入浴ができ喜ばれていた。

50年前の ① 武蔵小杉駅

当時の祭りはまちをあげて、大人も子どもも大賑わい。
／松本等氏提供



法政通りにあった映画館、有楽座。芝居も上演していた。
／今井清氏提供



③ 二ヶ領用水

二ヶ領用水で水遊び
泳いだり、用水を引き込んだ池に舟を浮かべて、釣りに出かけた。

木製の橋
砂利敷きで、車が通ったり雨が降ると補修が必要だった。



昭和11年のオープン。周辺農家の新鮮な野菜を提供し地域の人たちに喜ばれた。
／大野省吾氏提供



昭和32年の全国高校野球選手権法政二高準優勝パレード。更に昭和35年には優勝し、武蔵小杉の名を一躍全国に知らしめた。
／今井清氏提供

④ 南口のまちなみ

市ノ坪神社
旅芸人一座による芝居が演じられたり、夏になると盆踊りが賑やかに行われていた。東横線開通にともない、参道が変わった。

東住吉小学校

京濱伏見稲荷神社

昭和20年代に作られ、当時は境内に土俵があり、子供相撲が盛んに行われていた。

三業地のにぎわい

この辺りは旅館や料亭が多く賑わっていた。

② 北口のまちなみ

通勤の苦労

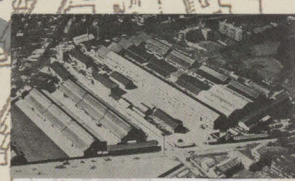
駅の周りは砂利道で、いつもぬかるんでいた。駅までは長靴で来て、履き替えて出かける人も多かった。



丸子村の寺小屋から始まり、昭和33年から校舎を鉄筋に改築。
／上丸子小学校提供

日本電気の丸池は自然池を掘って工業用水槽にしたもので、創業当時は二ヶ領用水から受水していた。
／中北氏提供

日本電気株式会社



昭和36年の東京機械工場
／東京機械製作所提供

⑤ 活気あふれる 工場のまち

東福寺の稚児行列

1649年に開基された西光山東福寺の本堂と庫裏の完成を祝う稚児行列が行われた。

東海道新幹線

この頃新幹線はまだ建設中。昭和39年に開通した。

(記述されているもの以外の写真は昭和33年頃のもです。)

今・明日マップ

A ニヶ領用水と渋川

戦後の都市化で農地が減少し、水質悪化もあり、用水としての利用は少なくなりましたが、かつての用水は美しい今井桜の咲き染める散歩道となりました。かるがもやザリガニ、アメンボ、大きな鯉も遊ぶニヶ領用水と渋川は、季節を問わず大人も子どもも楽しめる憩いの場所です。



B 市民館

中原市民館は、昭和49年に開館しましたが、小杉地区再開発にともない、平成21年4月より移転しました。市民の様々な活動をサポートする拠点として、かわさき市民活動センターも同時に開設されました。

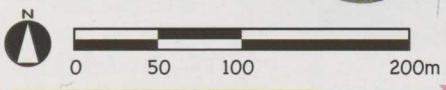


凡例

- ベンチのあるところ
- 石塔
- 石橋
- 寺社仏閣
- 川面に降りられる所
- 彫刻など
- 商店街
- 主な施設
- 新しくできる道路
- 再開発エリア
- 再開発の住居棟
- 桜並木
- イチョウ並木



特に桜のシーズンには最高の散策・休憩場所。



「なかはら20年構想委員会」は

20年後の中原区をよりよいまちにしようと、自分たちでできる取り組みを進める会です。これまでに区の花パンジーをまちに植えるパンジー宣言推進プロジェクト、「歴史と緑の散策マップ」の作成、中丸子緑道の整備検討などを進めてきました。興味をお持ちの方はぜひお問い合わせください。また、区全域のご紹介マップは「歴史と緑の散策マップ」を参照ください。

この地図は、川崎市の承認を得て、同市発行の都市計画基本図を使用したものです。承認番号（川崎市指令第176号）



多摩川

清流として親しまれていますが、現在の堤防ができるまでは、暴れ川でたびたび洪水を起こし、この地の人達を困らせており、アミガサ事件もおき、有吉県知事が道路をかさ上げし有吉堤を造りました。生活排水などで一時期丸子橋のあたりが泡だらけの時もありましたが、下水道の整備も進み、今は、大量の鮎が見られる川になりました。

多摩川緑地
(上丸子山王町地区)

再開発地区 おさんぽスポット



憩いの場

小杉のまちには様々な憩いの場があります。再開発地域の新しい緑や、何気なく置かれているベンチ、公園や寺社の木陰、ハッとするおもしろいもの…。ところどころ寄り道しながら、のんびりお散歩を楽しんでください。

また、区役所5階には、区民交流センター「なかはらっば」があります。晴れた日に富士山も見えます。

丸池跡
かつての丸池を偲ぶ
ビルとビルの中階層の人工地盤上に、写真のような噴水とプレート、藤の木が残されています。地球環境大賞受賞ビル。

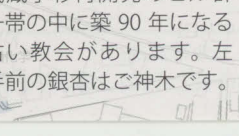
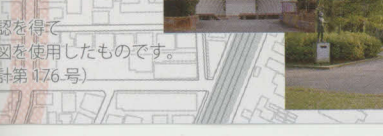
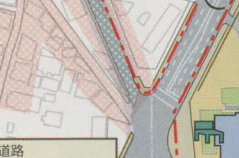
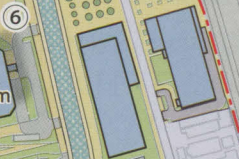
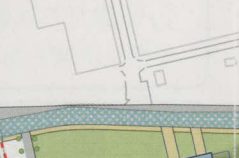
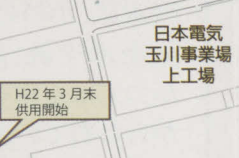
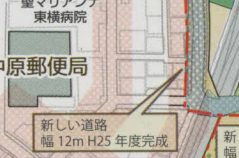
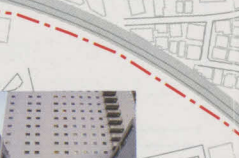
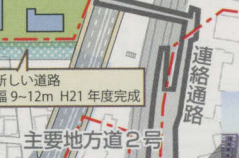
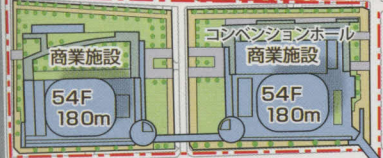
レトロとモダンの対比

武蔵小杉再開発のビル群の中に築90年になる古い教会があります。左手前の銀杏はご神木です。

※この地図は平成21年発行のものに、平成26年3月時点の再開発に関する情報を反映して改訂しています。

多摩川

清流として親しまれてきたまでは、暴れ川で地の人達を困らせておりました。吉原知事が道路をかき、生活排水などで一時期汚染の時期もありましたが、下流の鮎が見られる川になりました。



レトロとモダンの対比
武蔵小杉再開発のビル群
—帯の中に築90年になる
古い教会があります。左
手前の銀杏はご神木です。

承認を得て
本図を使用したものです。
表紙第176号)